

研究・調査報告書

報告書番号	担当
409	滋賀医科大学社会医学講座公衆衛生学
題名 (原題/訳)	
Light and moderate alcohol consumption significantly reduces the prevalence of fatty liver in the Japanese male population. 日本人男性集団において、軽度および中等度の飲酒は脂肪肝の有病率を有意に減少させる。	
執筆者	
Gunji T, Matsuhashi N, Sato H, Fujibayashi K, Okumura M, Sasabe N, Urabe A.	
掲載誌 (番号又は発行年月日)	
Am J Gastroenterol. 2009 Sep;104(9):2189-95. Epub 2009 Jun 23.	
キーワード	
日本人男性、飲酒、脂肪肝	
要旨	
目的： 肝臓における飲酒の効果については議論の余地がある。最近の報告では、中等度の飲酒がアラニンアミノトランスフェラーゼ ALT 高値の有病率を低下させることが示された。しかしながら、脂肪肝の進行に対する飲酒の影響については必ずしも研究されてきたわけではない。この研究の目的は、大きな日本人集団において飲酒と脂肪肝の関係を調査することであった。	
方法： 2007年5月から2008年7月までの間で医療調査を行った7431人の無症状の男性を集めた。B型肝炎またはC型肝炎、肝毒性の可能性がある薬剤を内服している、または代謝性障害で加療を受けている症例は除いた。脂肪肝の診断は超音波検査にて行った。内臓脂肪 VAT および皮下脂肪 SAT は CT 検査で測定した。脂肪肝と関連する独立した有意な予測因子は多重ロジスティック回帰分析にて決定した。	
結果： 初期検査候補者のうち、130人(1.7%)がB型肝炎陽性、66人(0.8%)がC型肝炎陽性であった。組み入れおよび除外基準に基づいて、5599人の男性(50.9±8.1歳)に対して横断研究を行った。潜在的な交絡変数を調整後の多変量解析の結果、軽度(40-140g/週)および中等度(140-280g/週)の飲酒者は、有意にまた独立して脂肪肝の可能性が低かった(オッズ比=0.824 および 0.754、95%信頼区間=0.683-0.994 および 0.612-0.928、P=0.044 および 0.008)。VAT、SAT、LDL コレステロール、トリグリセライド、および空腹時血糖は脂肪肝の有病率を増加させる有意な予測因子であったが、一方で年齢は脂肪肝の有病率を低下させる予測因子であった。	
結論： 無症状の日本人男性集団において、軽度および中等度の飲酒は脂肪肝の有病率を有意に減少させた。	